



教団百四十周年

# 教えを素直に実行する意味



子供に信仰の喜びを映そうと、毎年開催されている「夏休みあしつ親子参拝」(8月23日)

## 真 朋

発行所

天理教芦津大教会

〒546-0003

大阪市東住吉区

今川8丁目6番32号

電話 06 (6702) 1980

FAX 06 (6700) 1854

Eメール shinmei@ashitsu.or.jp

印刷所 天理時報社

月日にわだんだんとところにいるものも  
むねのうちをばしかとみている 十三号 98  
むねのうち月日心にかのふたら  
いつまでなりとしかとふんばる 十三号 99

『稿本天理教祖伝』に、村人が「をびや許し」を願ったが、教祖のお言葉に素直にもたれ切れず、結果として産後の熱で臥せってしまった、という話があります。私たちは、時に「本当に大丈夫だろうか」と疑ったり、判断に迷うことがあります。自分の考えや経験が邪魔をして、神様の思いを素直に受け取れないこともあります。信仰熱心な方ほど、「ひとすぢごゝろ」(三下り目)になることがいかに難しいか、実感すること多いのではないのでしょうか。

教祖が貧に落ち切れ、「物事の執着を去れば、心に明るさが生まれる」とお教えくださったのは、物欲に限ったことではありません。我が身思案という執着がなくし、まず神様の思召を求め、素直に聞き分け、そして実行することの大切さを、ひながたの最初に示してくださったのです。

おつとめもひのきしんもにいがけも、たとえどんな御用であっても、我が身思案を捨て、をやの思いを素直に受け止めて実行する。すると不思議と心に明るさが生まれ、「信仰の喜び」を感じることができる。これが真にたすかる道へと繋がるのではないのでしょうか。

## 正面四方

先日、布教推進講習会を受講した。講師は兵神部属・天浦分教会長夫人の木下恵美子先生であった。先生の

壮絶な布教体験や、祖母にあたられる木下寿美子先生の厳しい仕込みと、そこに込められていた親心のお話に、布教に心奮い立つ思いがした。その中でも、布教は教祖にお喜びいただくためのもの、理づくりであるということとが心に残った。

日頃、御用に追われる中、布教の大切さは分かっているが、つい後回しにしていたのか、ただだろうか。

この9月は「全教会布教推進月間」、月末は「全教一斉にをいがけデー」である。年祭活動仕上げる御用として、また心定め完遂に向けての理づくりとして、しっかりとをいがけに努めさせていただこうと誓う今日である。(岩)

## 《8月月次祭 挨拶》

どんな御用も結構と思い  
心勇んで働かせていただく

大教会長 井筒梅夫

皆様方には、日頃から時旬の道の上にお励みくださいまして、誠にご苦勞様です。まだまだ残暑厳しい中を大教会へご参拝いただきましたことは、8月の月次祭を滞りなく勇んで勤めさせていただきましましたことは、大変ありがたい次第です。只今から思案をするところを少しお話しして、月次祭の挨拶に致します。

今の時期は残暑に当たりますが、この残暑とは、立秋の日から8月いっぱい、もしくは9月初旬までを残暑と呼ぶのです。しかし、昨年は9月も猛暑が続きましたから、このままいくと残暑の期間も変わってしまうのではないかと思います。ここ数年間の夏は猛暑、酷暑が続いています。もしかしたら、これは異常気象ではなく、この暑さが日本の夏のスタンダードになるかもしれません。

その厳しい暑さの中で「こどもおぢばがえり」が開催されて、大勢の帰参者で親里は賑わいを見せました。芦津の少年会員や育成会員も、本部の各行事だけでなく、詰所での受け入れ行事でも大いに楽しんで、おぢばでの楽しい思い出をつくってくれたことと喜んでおります。

この期間は連日の猛暑日で、私も会場の見回りを致しましたが、

とにかく汗だくで、頭がくらくらしながら歩き回ったような次第です。子供たちは暑さにめげず楽しんでいたと思いますが、引率に当たった皆様方は本当にご苦勞、ご苦心をしていただいたことだと思います。しかしこの苦勞、苦心が将来の教会の上に繋がるのですから、これも本当にありがたい御用だと思わずにはおられません。

教祖は、御用ということについて、

「どんな辛い事や嫌な事でも、結構と思うてすれば、天に届く理、神様受け取り下さる理は、結構に変えて下さる。なれども、えらい仕事、しんどい仕事を何んぼしても、ああ辛いなあ、ああ嫌やなあ、と、不足々々では、天に届く理は不足になるのやで。」

逸話篇一四四「天に届く理」

と教えていただきました。私たちは、日々の暮らしの中で、辛いことや嫌だなと思うことは度々ありますが、それを口に出して弱音を吐いてはいけないとは仰っておられません。あくまでも、仕事をするとき、御用をつとめる際の心のありようを教えてくださいさっているのです。

私もこのひと月間、いろいろと御用をしましたが、あまりの酷暑に、「暑い」とか「しんどい」とか、知らず知らずのうちに口にしていたことがあったかもしれません。やったことが天に届いたかどうか、いささか心配になります。皆さん方はいかがでしょう。私たちが在籍者、教会長、ようぼくは、おぢばや大教会、そして各の教会の御用を担っています。この道の御用に無駄なものはいつもありません。たとえそれが取るに足らないような小さな御用であったとしても、決して無駄にはならないのです。

おさしづに、

小さいようで大きなもの、大きなもの小さきものの理があるから大きなものや。日々勤め小さいようで大きい。何とも無く思えば何でも無い。何でも無いもの大切な理に運んでくれる。この理は計り難ない。

明治 23 年 6 月 23 日

と教えられるように、たとえ小さな勤め、小さな御用であつたとしても、それを続けることで、それが先々大きな理になるのです。お道の御用に無駄なものは微塵みじんもありません。

御用には、自ら求めてする御用もありますし、立場上やらなければならぬ御用もあります。いずれにしましても、お道の御用をつとめるときは、不平不満や不足は努々ゆめゆめ思わず、「これで結構」「ありがたい」と感謝の心でつとめさせていただきたいものです。この心根と姿勢が天に届いて結構な理をお見せいただき、先々大きく理を伸ばしてくださいなのです。

教祖百四十年祭まで、あと 5 カ月となりました。御姿を隠してまで成人を促された教祖にお応えできるだけの勤めができているのか、お互いによくよく思案をさせていただきたいと思います。そして、大恩ある教祖にお報いできるように、「これで結構」「これがありがたい」と、この気持ち忘れずに、残された 5 カ月を踏ん張り切つて、心勇んで働かせていただきたいと思います。どうか皆さん方の教祖年祭に向けた一層一段と勇んだ歩みをお願い申し上げます。

今月も心ありがたく月次祭を勤めることができました。大変ありがとうございました。

(要約)

## 立教百八十八年 八月 月次祭祭文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前に、天理教芦津大教会長井筒梅夫、慎んで申し上げます。

親神様には一れつ可愛い子供を余さずたすけたいとの深い思召から、温かき親心を以てお育て下され、妙なる御守護にお導き下さいまして、陽気ぐらしへとお連れ通り下さいます御慈愛の程は、誠に有り難く勿体無い限りでございます。私共は、日に月に賜る御守護に拝謝し、御恩報じに努め励まして頂いておりますが、その中にも今日の吉日は、おちばよりお許しを頂きました尊き日柄でございますので、成人の誓いも新たに、只今から役目にあずかる者一同心を揃え、座りづとめ、陽気てをどりを勇んで勤めて、八月の月次祭を執り行わせて頂きます。御前には、残暑厳しき中をも厭わず、今日を楽しみに参き集いました芦津の道の子供達が、おうたを唱和して共にたすけ心を湛えてつとめに勇む状をお受け取り下さり、親神様にもお勇み頂きまして、立毛万物一切の御恵みをお垂れ下さいますようお願い申し上げます。

さて、今年のこともおちばがえりにも各地から帰らせて頂いた子供達が、夏の親里で互いに睦み合い、楽しい思い出をつくらせて頂き、学生生徒修養会では、高校生達は、互いに励まし合いつつたすけ心を培って、素晴らしい信仰体験をすることが出来ました。こうしてをやのお膝元で、世代に応じた成人の機会をお与え頂きますことは、誠に有り難い次第でございます。このおちばの親心にお応え出来るよう、将来の道を担う世代の育成丹精に、心を込めて努めてまいりたいと存じます。

更には又、私共をはじめ、芦津に繋がる教会長、ようぼくは、教祖の道具衆として人だすけの道にお使い頂く喜びと自覚を高めて、教祖のひながたに成人を求め、おたすけと丹精に励んで、陽気ぐらしへの足取りを着実に進めさせて頂く所存でございます。

何卒、親神様には一同の真実をお受け取り下さいまして、身上たすけ、事情治めの上には不思議鮮やかな御守護を賜り、教祖年祭の旬の追い風を頂いて、世界中の人々が一れつ兄弟姉妹として睦み楽しむ神人和楽の世の状に、一日も早く立て替わりますようお願いの程を、一同と共に慎んでお願い申し上げます。



《8月月次祭 神殿講話》

# たすけ心を尽くしておつとめを勤め 布教実動に邁進しよう

## 役員 竹内義忠

### 教会内容充実とは

三代真柱様はよく、教会内容充実を仰せられていました。

若い頃の私は、教会内容充実とは各々の教会活動を活発にしていることだと思っていました。今は教会内容充実を問われれば、それはそのまま「つとめ」の内容充実にあると申しても過言ではないと思っています。

教会存続の第一義は、朝夕の日の「つとめ」、人様の身上や事情を御守護いただくことを願うお願いづとめ、そして、「ぢば」の「かぐらづとめ」の理を受けて勤めさせていただく各教会の月に一度の月次祭の「つとめ」を、真剣に勤めさせていただくことにあると思います。

さらに、「つとめ」の内容充実を具体的に言えば、直接おつとめに参画してくださる、おつとめ奉仕者を増やすということ。そして、

教祖が教えられた通りの手振りを振り、鳴物も正しく打ち奏でて一手一つに勤める中に、勇み心が湧き上がってきて、心が晴れ渡り、身上や事情の御守護も頂戴できるような「つとめ」を勤めさせていただくということ。しかし、こうした「つとめ」を勤められるようになるのは、そう簡単なことではありません。

私は、物心付いた頃から、おつとめに慣れ親しんで育ちましたから、おてふりも鳴物も自然にとはいきませんが、それなりに身に付いて、大した努力もせずに習得できるようにになりました。また「つ

とめ」を勤めることの重要性も、年齢が経ってからは、ある程度は意識していました。

しかし実際は、おつとめを勤めることで、心が晴れやかになって勇んできたという実感は、なかなか湧いてきませんでした。さらにはこの「つとめ」が、世界平和、世界だすけに直結することの意味が、今一つしつかりと心に治まらない期間が長くありました。

しかし、元の理やみかぐらうたを、微々たることですが勉強する中で、少しずつおつとめのありがたさや、この「つとめ」で身上や事情がたすかつていく姿を、実際に経験する中で、この「つとめ」が世界平和、世界だすけに直結するのだという確信が持てるようになりしました。

特に今は、教祖年祭へ向かって、大教会では毎日9時からお願いづとめを勤めています。それぞれの教会においても、同様に勤めておられる教会が多いと思います。私どもの教会でも、毎日10時から、身上・事情者のお願い帳をお供え

して、お願いづとめを勤めさせていただいています。

大教会のお願いづとめで、多くの人たちが、御守護を頂いているとも聞かせていただきます。私どもの教会でも、たくさんではありませんが、少なからず御守護をお見せいただいています。

### 真実をお受け取りくださる

昨年の12月9日、私と妻とで親戚の葬儀に参列した際、何度か携帯電話が鳴りましたが、式の最中でしたので出ることができず、葬儀が終わってから携帯を見ると、自教会からの電話でした。すぐにかけ直し、当番でいた部内の会長に話を聞くと、母が2時間程前に自転車で行くと言ったと出て掛けたきり、帰って来ないのとことでした。

部内の会長がいろいろと探しに行くも母は見当たらず、「どうしましょう、警察に届けましょうか」との問いに、私は「すぐに届けてください」と言って家路へと急ぎました。



母は、10 年ほど前から軽い認知症を患っており、物忘れが多々あったので、買い物先からの帰り道を忘れたのか、違う方向へ出てしまい、分からなくなつたのだと思います。

私は、教会に着いてすぐにお願いつとめを勤め、探しに行きましたが、母を見つけることはできませんでした。

教会へ帰ると刑事が来ていて、妻に母がよく行くお菓子屋さんのことなどいろいろと聞いていました。その刑事は、すぐに母がよく行くお菓子屋さんへ聞き込みに行

つてくださり、防犯カメラも確認し、母がそのお菓子屋さんから出て、教会とは逆の方向に行つたということが分かりました。教会に居合わせた全員で手分けして探しましたが、なかなか見つからず、日が暮れてきました。母が出て行つてから、10 時間以上が経つていました。

八方塞がりの中、どうすることもできず、家族でもう一度お願いつとめをしようということになり、家族皆で神殿に集まり、その際、大教会長様、奥様、前会長奥様が、心配して何度も電話をしてきてくださったときに「今のこの句を考え、一人ひとり大きな心定めをさせてもらいや」と仰せいただいたことを、家族皆に話をし、それぞれ心定めをして心を揃えてお願いつとめをしました。

第一節の 5、6 回目だったので、ようか、妻の「お母さん」と言う大きな声が聞こえたその後に「ただいま」と、いつもの元気な母の声が聞こえてきたのです。私は拍子木を叩きながらでしたが、「帰っ

て来た。お願いつとめって本当にありがたいな」と、感無量になつたその後は、お願いつとめからお礼づとめへと変わりました。

どんな八方塞がりの境地にあつても、ただひたすらに神名を唱え、親神様にお縋りしておつとめを勤めれば、必ずたすかりの道へと導きくださいます。

母は、年祭活動が始まって、お願いつとめを始めてから今日まで、たつた 1 人の皆勤賞です。毎日毎日、欠かさずに十二下りのおつとめを勤めてくれています。その真実をお受け取りくださったのだと思うのです。

### 真剣にたすけ心を

#### 尽くしておつとめを

教祖は、「おつとめをせよ」と仰せられました。このおつとめは、陽気ぐらし世界を生み出す最も大切な道です。そして、最も重要なのはかぐらづとめであり、また、その理を受けて勤められる教会の月次祭、大祭です。その月次祭、大祭のおつとめで、また日々のお

つとめやお願いつとめで、世界の平和を願う、おたすけに掛かつている人のたすかりを真剣に願う。また、広く世界で悩み苦しんでいる人たちの御守護をお願いする。真剣にたすけ心を尽くしておつとめを勤めさせていただく。その中に、「不思議なたすけの理」を戴けるのだと思います。

立教 160 年の春の大祭での三代真柱様のお言葉に、

「教祖五十年のたすけ道の道すがらは、つとめを完成せられるにあることが、しみじみと胸にしわたつて、私はいたたまれなくなるが、時としてあるのであります。(中略)

私たちは、数祖がお望みになるつとめの完成に向かって、努力を重ね続けてこそ、子供かわいばかりに、二十五年も定命をお縮めになつた教祖、また御身をかくされて後も現にたすけ一条にお働きくださる教祖、また、たすけ一条の道を歩む私たちを、温かく導き守ってくださいる教祖に安心していただけるこ

とと思案するであります。

このうえから、私は重ねて申したい。私たちの任務は、つとめを完成させることが最大の任務である。これは、本部といわず、各教会といわず、教会長、信者の別なく、一人ひとりが同じだけの重さを持った任務である。日々常々は、いつもそのことを目標にして、心を磨き自分を成人させる道中であることを、私たちはしっかりと自覚をさせていたただかねばならないと思うのであります。」

〔みちのとも』立教160年3月号〕と、おつとめについてお教えくださいました。

この大切な時句に、「命の切り替えをするのやで」と仰せいただく「つとめ」に対する自分の姿勢を今一度、思案をさせていたただきたい。おつとめに対する姿勢はどうだろうか。情性に流されたような月次祭を勤めていないだろうか。日々のおつとめはどうだろうか。疎かになってはいないだろうか。月次祭のおつとめで、また日々の

おつとめやお願ひづとめで、あの人にもこの人にもたすかつてもらいたい、との思いで、おつとめを勤めているだろうか。こうしたことを、今一度共に思案し、年祭までの残り5カ月間は、その思いを普段よりも強く持つておつとめを勤めさせていたただきたいと思う次第です。

### 9月は「全教会布教推進月間」

さて、9月は「全教会布教推進月間」です。本部の布教部より、年祭活動の2年目の昨年と、3年目の本年に限って、9月を「全教会布教推進月間」として勤めていたいただきたいとお打ち出しのもと、大教会としては各教会の9月の祭典後に、布教活動を行っていたいただきたいとお願ひをし、おつとめいただきました。

本年も同様に、9月を「全教会布教推進月間」としてつとめさせていただきます。各教会に対しては、ようばくが一番集まりやすい月次祭の日に、どのような形でもいいので、布教実動をしていただ

きたい。また、ようばく個々において、大教会から出しているリフレットを3部お配りして、9月中に実動をしていただく。これを大教会としての9月の動きとしてお願ひをしています。

### 1枚のパンフレットから

今年に入って、尼崎にある私どもの教会に、ある青年が参拝に来るようになりました。その青年は、愛知県生まれで、小学校から高校を卒業するまで愛知で育ちました。

大学は京都で、卒業してからはJR西日本に就職したのですが、勤務先が山口県になりました。しかし、付き合っている彼女と離れるのが嫌で、JRを退職。彼女が住んでいる尼崎に来て就職先を探し、現在、神戸製鋼で働きながら、尼崎の隣の西宮で、彼女と同棲をしています。

この青年の入信のきっかけは、1枚のパンフレットでした。高校生の頃、名古屋駅の前で天理教の布教師から手渡された1枚のパンフレットから天理教に関心を持ち、

入信をされたのです。

パンフレットにどのようなことが書かれていたかは分かりませんが、その青年はパンフレットに書かれてあった教会を探したので分らずにいました。そのときに、同じクラスに天理教の教会の息子さんがいるということが分かり、その友人にパンフレットに書かれてあった教会を教えてください、その教会の門を叩いたそうです。

そこから別席を運び、今は満席まで進んで、この秋におさづけの理を戴く運びとなっています。

この青年が所属する教会の奥様が彼を丹精しているそうですが、彼はその奥様から、「西宮から愛知まで通うのは大変だろうから、近くの天理教の教会を探して、その教会へ参拝に行きなさい」と言われて、私どもの教会に参拝に来たという経緯です。また「近くの教会への参拝を欠かさず、教会の行事にも参加をきなさい」と言われて、それを忠実に守っておられます。



1枚のパンフレットが、1人の人の運命を変えることが出来るとすれば、じっとしてはいてもった

どうか、「全教会布教推進月間」ならびに「布教推進隊」を一つの吉祥として、各教会、また個々の布教力が向上していきますよう、共々につとめさせていただきましよう。

[illegible]

# 喜びの奉告祭

吉野川部属・北地分教会(徳島県東みよし町)は、8月11日、大教会長をお迎えして、杉下明徳・七代会長就任奉告祭を執り行った。午前10時、杉下会長の祭文奏上に続いて、大教会長が挨拶。

「教祖の教えは底抜けに明るい教えです。教会に来たら心が明るくなるような、そんな陽気ぐらしの手本に相応しい教会を目指してもらいたい」と望まれた。

その上で「この教会にいんねんあつて繋がる皆様には、理想の教会に近づくための徳分が必ずあると思う。その徳分を生かして、理想の教会に一步でも二歩でも近づいていけるように、新しい会長さんに心を添えて、一手一つに教会活動を進めていただきたい」と願われた。

おつとめを勤めた後、杉下会長は、「今までいろいろと支えてくださった皆様方と、喜び心溢れる教

会を目指して、一手一つに務めさせていただきたい」と決意を述べた。

記念撮影をした後、直会では、談笑しながら和やかな時間を過ごした。

参加者数は21名であった。



## 学生生徒修養会・高校の部

8月9日から13日まで4泊5日の日程で「学生生徒修養会・高校の部」が開催され、約780名の高校生が受講した。

全国各地からおちばに集まった学生たちは、「陽気ぐらしに必要なこと——向き合うことの大切さ」をテーマに、講話、グループワーク、レクリエーションなどのプログラムで教えを学び、宿舎での生活では寝食を共にし、語り合うことで友情をはぐくみ、おちばの夏でしか味わえない貴重な体験を得ることができた。



芦津大教会からは5名が参加。

今年初めて参加した学生は、「去年の参加者から、『絶対に楽しいから行った方がいい』と勧められて参加した。最初は不安だったけど、班の仲間たちが、本当に嬉しくなるような声をいっぱい掛けてくれて感動した」と、初めて出会った仲間との絆ができたことを喜んだ。

## 【参加者】

寺本すみれ(紀内)

八木 雄輝(東大屋)

菊池 七海(東大屋)

山下 保(芦山都)

畠中 歩(芦山都)

## 【本部スタッフ】

井筒たつえ(直轄)

## 夏休みあしつ親子参拝

## 育成部

育成部(山田道弘部長)は、8月23日、毎年恒例の「夏休みあしつ親子参拝」を実施した。

子供に信仰の喜びを伝えるため、夏休みに家族揃って大教会の月次祭に参拝しようという提唱から始



まった親子参拝に、教会子弟をはじめ大勢が、家族ぐるみで大教会月次祭に参拝した。

祭典終了後には、参拝場で子供向けに用意したお下がり、食堂前では女子青年の協力を得て、かき氷が配られた。

夕づとめ後の直会は、大教会長を囲んでの会食。子供たちが喜ぶオードブル、さらには青年会や学生会が鉄板で肉や焼そばを焼き、食後にはかき氷も配られた。子供連れの家族が大勢参加し、子供たちの笑顔が溢れる賑やかな直会となった。



## 全教会布教推進月間、 布教推進隊始まる

布教部

本年 9 月は、昨年と同様、本部布教部より、教祖百四十年祭に向かって、全教会を拠点に 1 人でも多くのようぼく、信者が実動することを目指し「全教会布教推進月間」と打ち出されている。

打ち出しを受け、布教部（竹内義忠部長）は、大教会の動きとして、教会に対しては、「ようぼくが一番集まりやすい月次祭の日に、全教会が布教実動を行う」、ようぼくに対しては、「大教会が発行するにいがけリーフレットをようぼく一人 3 部ずつ配布し、にいがけ



四ツ山分教会での神名流し

けに取り組む」ことを呼び掛けている。

合わせて、9 月から 12 月にかけて、全国 13 カ所のブロックに対して、布教推進隊を派遣し、各地で布教力の強化、活性化を目指している。

9 月に入り、各教会での月次祭で実動が活発に行われている。

四ツ山分教会は、祭典終了後に教会前で参拝者と共に神名流しを行った。

大教会では、内勤者を中心に、有志の方々も参加し、毎日の夕づとめ後に大教会周辺の神名流しを実施している。

また、布教推進隊も沖縄ブロックでスタート。5 日に 7 名で国際



大教会夕づとめ後の実動

通りで神名流し、リーフレット配りを行い、翌日は沖縄分教会祭典終了後に、10 名で神名流し、路傍講演、リーフレット配り、戸別訪問を行い、その後振り返りを行った。

参加者からは「年祭活動に入り、にいがけに出なければいけない、私も 1 人ではできなかったが、布教推進隊の活動のおかげで、大勢の方とにいがけに出ることができ、ありがたかった」などの勇んだ声が聞かれた。

布教推進隊は、今後も 12 月までの期間で残り 12 カ所のブロックで開催される。



沖縄ブロック 国際通りでの神名流し



「ファミリーの集い」開催

島原分教会

8月16日、島原分教会（岩切正教会長・長崎県南島原市）は、月次祭終了後に「ファミリーの集い」を開催した。よろづよ八首を総立ちで勤め、鳴り物練習の後、謎解きゲームを実施。その後の会食はバーベキューを楽しんだ。夏休み中のため、多くの子供たちが参加し、賑やかで楽しい時間を過ごした。参加者は大人18名、少年会員20名であった。

教務部報

教養掛《8月》

主任

西本 義之

教養掛

元木 亮太

教会長資格検定合格

榎 つよ子（芦美屋）

立教188年7月17日教会長資格検定講習会第153回を修了し、翌18日検定合格されました。

教人登録

瀧本 昂郎（紀周）

立教188年8月6日

修養科第1008期修了

今川 壽男（泉砂川）

濱本 照夫（眞一）

立教188年8月27日

おさづけの理拝戴《7月》

山田 純也（東祖谷）

宮崎 翔琉（青港）

林 良子（鳥栖）

森山 勝盛（芦南）

林 陽之（山城谷）

後藤 彩音（大島）

緒賀 帆風（大島）

廣 あいり（大島）

《拝戴日順 8名》

初席《7月》

《2名》西浜、芦明德

《1名》豊崎、脇町、本京櫻、玉成

《順序運びより 8名》

教会長登殿参列《8月》

今川 保成（春日出町）

岩切 正晴（島百合）

川本 豊子（上有明）

守田 清一（津和）

奥野 善宣（津勝）

松本さだえ（神滝本）

以上6名

月例統計（自令和7年1月1日～至令和7年7月31日）

項 目 名 称 ( ) 内教会数	初 席	の お 理 さ 拝 戴 け	修 養 科 修 了	教 人
大 教 会 (1)	10	5		
東 津 (13)	2			
吉 野 (23)	3	3	3	
島 川 (29)	5	5	1	
日 原 (16)	6	5		
稗 方 (15)	4	3		
本 島 (7)				1
日 津 (2)				
始 高 (2)				
津 良 (5)		1		
門 和 (12)	2			
當 司 (6)		2		1
大 別 (6)	1			
沖 島 (26)	7	5	3	
尼 縄 (3)				
四 崎 (2)	1	1		
大 ツ 山 (5)		1		
島 冠 (2)				
天 下 (1)				
青 保 山 (3)				
芦 木 (1)				
甲 浪 (1)		2		
芦 邊 (1)		1		
天 華 (1)				
入 津 (1)	1	1	1	
豊 野 (1)	2			
紀 周 (3)	3	2	2	
勝 明 (1)				
神 の 島 (1)				
兵庫眞洲 (1)				
芦 ノ 郷 (2)				1
本 明 勇 (2)				
明 道 (1)		1	1	
芦 東 (1)				
和 鎮 (3)	1	2		
神 滝 本 (1)				
芦 明 徳 (1)	3	1	1	1
眞 明 彰 化 (2)	10	1	2	
本 氣 (2)				
芦 明 照 (1)				
眞 伯 (1)				
合 計 (209)	61	42	14	4

99<sup>th</sup> 天理教青年会総会

10.25<sup>土</sup>

式典 午後1時 本部中庭

あの人のために おぢばへ。



【総会受付用  
2次元コード】  
参加される会員は  
事前登録をお願いします。